脱毛サロンに行ったら、小学生時代の縦割り班の班長だった女の子がスタッフをしていて、おちんちん見られた話

15年ぶりだった。

僕は予約時間の少し前に脱毛サロンの受付につき、タブレットに名前を入力した。

【斎藤健介】

VIO脱毛。初めての施術で、少し緊張していた。待合スペースで雑誌をめくっていると、スタッフが名前を呼んだ。

「斎藤様、こちらへどうぞ」

声の主は、落ち着いたトーンの女性だった。顔を上げた瞬間、どこか見覚えがある気がした。でもすぐに思い出せない。彼女の方は、僕の名前を確認した瞬間、わずかに目を見開いた。

「……もしかして、あの斎藤健介くん？」

声が少し柔らかくなった。僕はきょとんとした。

「え？　はい、斎藤ですけど……」

「私、覚えてない？小学校の時の。縦割り班で一緒だった。私が班長やってて」

一瞬、時が止まったような感覚がした。6年生の班長。1年生の僕をかわいがってくれてい

た、少しお姉さんっぽい女の子。名前は……確か、あかりちゃん。

「あかり……さん？」

「うん。井上あかり。本当に斎藤くんだ。15年ぶりだね」

彼女は軽く笑った。大人になっても、目元の優しさは変わっていない。僕は戸惑いながらも、軽く会釈した。

「まさかこんなところで会うなんて……。サロンのスタッフさんなんですね」

「うん。今日は私が担当するね。どうぞ、こちらへ」

個室に通されると、ベッドと照明、清潔な匂いがした。あかりさんは説明を始めながら、テキパキと準備を進めた。

「VIO脱毛なので、お着替えをお願いします。下はすべて脱いでいただいて、このガウンを羽織ってね」

あの時の感じでのタメ語と、スタッフとしての敬語が混じったなんか変な距離感だ。